

## 第64回基本方針策定タスク 議事録

1. 日 時：令和元年 12 月 11 日（水） 9:15～12:00

2. 場 所：日本電気協会 4 階 D 会議室

3. 出席者：（順不同、敬称略）

出席委員：阿部主査(NUSC 幹事/東京大学)，越塚(NUSC 委員長/東京大学)\*1，高橋(NUSC 副委員長/電力中央研究所)，波木井(NUSC 委員/東京電力 HD)，牛島(安全設計分科会幹事/関西電力)，山田(構造分科会幹事/中部電力)，山内(原子燃料分科会幹事/東京電力 HD)，渡邊(品質保証分科会幹事/原子力安全推進協会)\*1，大平(運転・保守分科会幹事/日本原子力発電)，都筑(日本電気協会) (10名)

欠席：白井(耐震設計分科会幹事/原子力エネルギー協議会)，大浦(放射線管理分科会幹事/日本原子力発電) (2名)

事務局：三原，須澤，小平，岸本，平野，寺澤，境，大村(日本電気協会) (8名)

\*1：途中退席

### 4. 配付資料

資料 64-1 基本方針策定タスク委員名簿

資料 64-2 第 63 回基本方針策定タスク議事録（案）

資料 64-3-1-1 原子力規格委員会運営規約細則の改定について

資料 64-3-1-2 原子力規格委員会 運営規約 細則 新旧比較表

資料 64-3-2-1 第 7 回 原子力規格委員会シンポジウムテーマ候補 整理表

資料 64-3-2-2 第 7 回 日本電気協会 原子力シンポジウム プログラム（案）

資料 64-3-2-3 第 7 回 日本電気協会 原子力シンポジウム プログラム（案） 補足説明

資料 64-3-2-4 パネルディスカッションの進め方(案)

資料 64-3-3 規格改定作業用データの管理について

資料 64-4-1 令和元年度 原子力規格委員会功労賞 申請・選考スケジュール（案）

資料 64-4-2 学協会規格ピアレビュー試行 現地レビュー実施概要

資料 64-4-3-1 JEAC4206-2016 「原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法」  
他 1 件の技術評価対応状況について

資料 64-4-3-2 第 3 回 原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法等の技術評価に  
関する検討チーム会合資料

資料 64-4-3-3 第 4 回 原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法等の技術評価に  
関する検討チーム会合資料

資料 64-4-4 検査制度の見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について（報告）

資料 64-4-5 2019 年度各分科会活動報告

資料 64-4-6-1 学協会規格高度化 WG 報告書案へのコメント対応一覧表

資料 64-4-6-2 学協会規格高度化 WG 報告書

参考資料 1 第 72 回原子力規格委員会 議事録（案）

参考資料 2 2018 年度活動実績及び 2019 年度活動計画（平成 31 年 3 月 28 日，第 70 回原子力  
規格委員会 資料 No. 70-11-1）

参考資料 3 2019 年度各分野の規格策定活動

## 5.議事

事務局から、本会にて、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触するおそれのある活動を行わないことを確認の後、議事が進められた。

### (1) 定足数確認他

事務局から、配付資料の確認があった後、出席者の確認時点で、出席委員は10名で、決議に必要な条件(委員総数の3分の2(8名)以上の出席)を満たしていることを確認した。なお、途中退席2名であるが、出席委員数は8名で、決議に必要な条件を満たしていることを確認した。

### (2) 前回議事録確認

事務局から、資料64-2に基づき、前回議事録の説明があり、コメントなく承認された。

### (3) 審議事項

#### 1) 原子力規格委員会 運営規約細則の改定について【審議】

事務局から、資料64-3-1-1及び3-1-2に基づき、運営規約細則の改定について説明があった。審議の結果、コメントを反映して3役確認の後、規格委員会で審議することとなった。

#### (説明内容)

- ・審議フローについて、全体の流れが見にくく、細則の文言と整合していない箇所があることから、全面的に見直しを行った。
- ・規約細則の改定に合わせ、規格策定の手引きに沿った記載の適正化を図った。

#### (主な意見・コメント)

- ・様式例-1「反対／保留の条件ではない」とはどういう意見か。賛成の条件として意見を書くのか。→賛成は3で賛成に○を記載する。その下3行は反対又は保留条件で、賛成意見は4に記載する。
- ・4は現行通りとし、変更しない。3の反対、保留の下に、「反対理由、保留理由」を記載する。
- ・様式例-1で、変更後はフォントを「手引き」に従ってCenturyにすることに伴い、「○」の形が「o」になっているが、もう少しよくなるか。
- 日付はyyymmdd等のような記載もあるが、普通の数字もあって統一は出来ない。もう少しうまい表現を検討する。
- ・フローについて、反対票があり、技術的内容で反対意見に対応したうえで、反対票が取り下げられたら、それは再審議の対象となるのか。
- 2つの可能性がある。③再審議又は②再投票となる。
- ・反対には投票中でも締め切り後でも対応するが、保留意見の対応はしないのか。また、反対票なしで下に進み、下の意見で編集上の修正を超える時は右側に行くが反対票がないので、選択は不要ではないか。
- 反対票が出た時点で投票期間中でも通知するが、保留票については都度通知するようにはなっていないことから、原則投票後に連絡することとなる。また、編集上の修正を超える時のフローとして、可決となったが取り下げられなかった反対意見があるため、選択を残している。
- ・フローに規約の条項が記載されているが、委員会の規約条項で、分科会の条項と異なる。
- 分科会規約では12条になる。右上四角の中に分科会規約では12条に相当することを記載する。
- ・一番下の公衆審査のところ、分科会審議では規格委員会の審査になることでよいか。
- その通りである。
- ・書面投票は期間が30日以内であるが、フローでは読めない。一方、再投票の時のみ投票期間2週間と記載している。

→通常の書面投票は30日以内で、60日以内にもできる。

再投票については、投票期間が2週間と明確に決まっているということもあり記載したが、規約を読んで運用することとし、フローからは削除する。

- ・フローで、線が斜めになっているところは修正されたい。

→了解

- ・本件は意見を反映して修正して、3役確認後、規格委員会で審議する。

○意見を反映して3役確認後、規格委員会審議を行うことについて、挙手にて決議し、承認された。

## 2) 第7回原子力規格委員会シンポジウムの開催概要について【議論】

事務局から、資料64-3-2-1～4に基づき、シンポジウム開催概要の説明があった。

議論の結果、資料64-3-2-2プログラム案を本日の意見をもとに改定し、規格委員会へ方針として提示することとなった。また、原案の方向で引き続き検討を行うこととなった。

(説明内容)

- ・資料64-3-2-1にて、前回タスクの議論を踏まえ、事務局案として、原子力安全性向上に資する規格整備と今後の課題についてのテーマを提案した。
- ・提案したテーマに従い、資料64-3-2-2～4において、シンポジウムのプログラム案（構成、時間配分等）及びパネルディスカッションの進め方について提案した。

(主な意見・コメント)

- ・ゴールは何か。電気協会として、ニーズを踏まえて、今後こうしていきたいということか。あるいは、規格がどのようにあるべきかを議論するということか。
  - ・規制と事業者が共通のものさしで進めたいというところと、事業者だけで、事業者間でばらつかないようにする規格を使えば良いという考えもある。一方で、ATENAガイドとエンドースされないけれど役に立つ電気協会規格との棲み分けについて思う所もあるので、その辺を探るシンポジウムになれば良いと思う。
  - ・ユーザに事業者と規制とメーカーがいるが、3者3様のニーズがある。JEAC4111, JEAC4209は、事業者がエンドースされなくて良いとのことであるが、共通なものさしとして今後も使われる。事業者と規制との共通のものさしになるようなところを目指していくのであろうが、そのところをテーマにするのがよいのではないか。
  - ・段々、エンドースのはしごが外れて、事業者が説明責任を果たすことにROPはシフトしている。事業者、メーカー、産官学がもっと詳しいところまで書いて、しっかりしたものにするということで、意見が交わせるかと思う。民間規格の使い手、読み手の意見を聞くようにと、ピアレビューでは言われた。広く、使用者のニーズを拾うという意味で良いテーマと考える。
  - ・新規制の審査は維持規格、設計・建設規格、破壊靱性と機械系の設計規格が多く、電気協会の規格を使って説明したものはない。このため、事業者の意見、取組では、他学会の話も出すことになり、電気協会のシンポジウムとして収まらないことも考えられるため、結論を主査がうまく導けるかどうか。
  - ・再稼働プラントは運用規格を使うが、大多数は審査中で、その他の規格が登場する。
- パネルディスカッションは機械学会も原子力学会も入っている。最後のまとめは大丈夫と考える。
- ・新検査の方は新検査、審査担当は審査を通すための目線になる。重きの置き方が変わってくる。
  - ・最終的には、従来のエンドースだけではなく、民間規格のいろいろな使い方を今後模索していかなければいけないというところになるか。

- ・社会に対して規格がある，事業者間の技術の底上げ，一定レベルの技術維持として規格の意味がある。事業者にとってはエンドースされるのはありがたいが、社会への発信という意味で、技術の維持は大事である。そのあたり何か言えたら良い。「真に有用な規格作り」は良いワードである。

- ・新知見は待っていても出てこない。そういうお願いをしたい。

→新知見は学協会だけではない。運転経験もある。

- ・原子力学会と機械学会は規格作る場所と研究する場所の両方がある。電気協会は研究がないと言われるが、その分事業者知見には近い。そんなことも議題になる。

→今回は電気協会の規格を中心としたものとして進める。規格委員会に方針として示したい。

- ・前回、委員長が出ずっぱりであったため、何か変更できないか。

→講演の座長を副委員長が担当することとする。

- ・パネルディスカッションの資料 62-3-2-4 の 2.はもう少し深掘りしていただきたい。電気協会の講演は、ここで何を議論しなければいけないかを演繹する講演とする。何を結論とするか見えにくい。論点を整理いただきたい。

→今後継続して検討する。

- ・場所は決まっていない。人数が 200 ではあまり選択肢はない。120 程度では山上会館がある。

- ・武田先端知ビル(武田ホール)があるのではないか。

→過去、1~2 回実施している。調べることにする。

○本件は、12 月規格委員会で方針を示すとともに、3 月規格委員会に上げる。

- ・次回タスクで決定する。今後、詳細を詰めていく。

### 3) 規格改定作業用データの管理について【議論】

事務局から、資料 64-3-3 に基づき、規格改定作業用データの管理について説明があった。

議論の結果、作業用データの一元管理を事務局で行うこととなった。

(説明内容)

- ・原本が一元管理でないことにより、JEAC4206-2016 改定で正誤表の内容が反映されなかった。

- ・規格原本データを電気協会一元管理し、改定作業は管理されたデータのみを使用する。

- ・発行に近い規格を例にして、保管するデータ内容や作業量を検証することとする。

(主な意見・コメント)

- ・原本は紙の原稿である。PDF にしてそれを印刷したものが原本になる。ワードから PDF に変換する時に化ける可能性がある。電子情報を持っていても PDF に変換するときにはチェックする必要がある。

→電気協会側としては、出てきた生データを変換するとかの操作は行わない。ただ保管するだけである。次の改定のための引き継ぎのためだけのデータ保管である。

あくまでも印刷体として使用するの、最終版として提出された PDF である。一緒に提出されたワード版は印刷体としては使わない。

- ・最終版の PDF とワード等のセットで提出するというので、改定時にはワード等のデータが提供されるという運用か。

→そのようになると考える

- ・事務局は単純に保管するだけと思うが、開けるかどうかは確認するのか。
- 固有のソフトで作っている場合もある。CAD の電子情報も送付いただき、事務局は保管するだけとし、必要な時は CAD が使える会社に送付する。
- ・パスワードの有無等、細かい運用を決めておく必要がある。
- どんなデータがあるか、それぞれの規格で異なっている。JEAC4111 のようにテキストが主のもの、JEAC4201 のように式ばかりのものもある。例を見ながら運用は決めていきたい。
- ・そのような細かな管理は事務局ではなく、検討会ではないか。
- パスワードをかけないとかの運用は統一的に決められるかもしれない
- ・メールに添付できる容量が限られている。一括で授受できるように、アップロードできるようにしていただきたい。
- ・データの授受の方法については、CD での提供や大容量メールなどのいろいろな方法があると思うので検討願いたい。
- 検討する

- PDF とワードの両方を保管するとのことであるが、事務局としては、規格の正は、製本された規格であると考えている。チェックは、製本された規格と改定案が整合している、変更したところはちゃんと変更されていることを確認していただくと考えている。このため PDF を正とは考えていない。正は、販売したもの（製本された規格）と正誤表であると考えたと PDF の保管が必要なのではないか。
- ・PDF を正と考えなくてもよいが、作業員からは一括で見える PDF と編集できるワードファイルがセットになっていると、作業はやりやすい。
- 耐震では、各検討会でばらばらで1つの JEAC4601 を作る。その時にいくつもの PDF があっても良いか。あるいは耐震設計分科会で PDF を1つにまとめるのか。
- ・PDF のファイル数が改定前後で異なっても、規格全体が網羅されていれば、それで管理すれば良い。
- PDF も合わせて、検討会が作成して、事務局に渡していただくこととする。
- ・どう運用するか。規約等を変えなければならないのか。
- 規約に追加するか、検討している段階である。何等かの形で作った方が良く事務局は考える。
- ・運用するうちに改善していくこととなるので、まずは手引きに記載して運用して、その後、上位で文書化することでよいと考える。
- 今後、事務局でまとめて、文書化する。

○一元管理の方向性について、挙手にて決議し、承認された。

#### (4) 報告事項

- 1) 令和元年度原子力規格委員会功労賞の申請・選考スケジュールについて【報告】  
事務局から、資料 64-4-1 に基づき、功労賞の申請・選考スケジュールについて、報告があった。

(説明内容)

- ・功労賞の推薦依頼を規格委員会、分科会、検討会の各委員に送付。受付は 12 月 27 日まで。

- 2) 学協会規格ピアレビューの試行状況について【報告】  
事務局から、資料 64-4-2 に基づき、ピアレビューの試行状況について、報告があった。

(説明内容)

- ・10月25日に、原子力学会の現地レビューを実施した。良好事例4点、要改善事項なし、推奨事項5点。報告書のレビュー等を経て、2020年3月に規格類協議会に概要報告書を提出する。

(主な意見・コメント)

- ・開始の時期を公知した方が良いとしているが、機械学会では実施している。  
→原子力学会では実施していない。電気協会ではHPで開催予定は公開されるが、規格の改定の検討を始めたとして、HPには載らない。
- ・オブザーバ参加ができ、意見を言いたい人は意見が言えるが、改定が5年に1回くらいであれば検討が開始されたことのアナウンスがないと意見が言えない。ルールとして開始の公知が必要である。  
→検討会レベルで検討が開始されたタイミングで公知するのでいいと考えている。
- ・ピアレビューの試行を実施して良かったことはあるか。  
→原子力学会で取り組んでいる倫理教育などは参考になった。
- ANSIの設問ベースのコンプライアンスチェック的なところの聞き方で、確認の仕方は見直す必要がある。  
→レビュー側も受け手側も負荷はかかる。
  - ・負荷に見合った結果、メリットがないとにならない。
  - ・次はどこが受けるのか  
→次回は電気協会が受ける。

### 3) JEAC4206 他1件の技術評価会合に関する対応状況について【報告】

資料64-4-3-1～3に基づき、技術評価会合に関する対応状況について、報告があった。

(説明内容)

- ・資料64-4-3-1はすでに紹介しているが、第3回、第4回検討チーム会合を追加した。
- ・資料64-4-3-3資料4-2で破壊靱性評価の考え方を説明した。これで1つの山を越えたと考える。

(主な意見・コメント)

- ・あと何回くらい会合が開催されるのか。  
→全部で6回くらいかと考える。技術評価書案はまだ出てきておらず、予想はできない。  
→年度内には評価書までできるのではないかと考える。

### 4) 検査制度見直しに伴う規格の制・改定の検討状況について

事務局から、資料64-4-4に基づき、規格の検討状況について、報告があった。

(説明内容)

- ・JEAC4111は分科会書面投票を実施、反対票により否決。3月の規格委員会に上程検討。
- ・JEAC4209 / JEAG4210は分科会書面投票を実施、反対票により否決。3月規格委員会に上程検討。

### 5) 各分科会活動報告

資料64-4-5に基づき、各分科会の活動報告が行われた。トピックとしては、以下の通り。

#### a. 構造分科会：

- ・原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法等の技術評価対応を実施中。

b.品質保証分科会：

- ・関係法令類の決定が12月下旬に先送りと公表されたため、関連法令類を反映すべきとして否決された。法令類を反映して、3月の原子力規格委員会に上程する。

c.耐震設計分科会：

- ・JEAG4614 免震構造設計技術指針は、令和2年1月発刊に向け準備中。

d.運転・保守分科会：

- ・JEAC4209/JEAG4210 改定案は反対票があり、取り下げられなかったため、再審議となった。

(主な意見・コメント)

- ・JEAC4201の上程時期はいつになる予定か。  
→検討会で工程を作っている。発刊時期は2021年度にずれ込むことも考えられる。
- 電事連の予定からは遅れている。
- ・3月に中間報告を行うことを検討会では調整中である。

6) 学協会規格高度化WG 報告書(案)について

事務局から、資料 64-4-6-1 に基づき、学協会規格高度化WG 報告書(案)について、報告があった。  
(説明内容)

- ・P22 抗告権：規格への意見で納得できない場合、電気協会では規格委員会に再度異議申し立てができる。機械学会、原子力学会は理事会を上部組織と位置付け、理事会へ抗告できる。電気協会では、理事会は上部組織ではないため見直しをWGに申し入れ、WGでは表現を修正予定。
- ・P24 (2)公開性、(3)アカウントビリティ：アカウントビリティとは規格の原点やバックデータを説明することであり、原案に記載された少数意見、反対意見へきちんと説明することではない。少数意見に対して説明することは公開性に準ずる活動で(2)公開性に入れるべきである。JEAC4201が本件の発端とされているが、その対応がWG報告書では悪かったと誤解して記載している。電気協会は、当時も今も悪い対応ではないとしている。WGでは修正案を考えるとのことであった。
- ・改定案は12月19日に規格類協議会で審議される。25日の規格委員会ではその結果を報告する。

(5) 次回のタスク予定について

次回タスク(本会議)：3月3日(火) 9:15～ A会議室

(事務局より補足)

- ・次回タスクでは、iPadが使用できないため、極力PCを持ち込んでいただきたい。
- また、PCの持ち込みの可否については、事前に確認の連絡を行う。
- WiFiの接続できないPCもあるので、資料が事前に送付してほしい
- 了解

以上